# 竹川病院

**症　例　概　要**　非常用発電装置の増設に伴う夜の全館停電に対して、職員がOneTeamとなって無事に乗り越える事ができた事例

**内　　容**

当院は災害等で電力供給が停止してしまった場合に備え、ディーゼルによる発電機を設置しています。電力を3 ～ 6時間提供でき、停電時の照明や電子カルテの閲覧、医療機器に給電を行っていました。

今回、大規模災害が起こった時に備え、72時間電力を供給できるLPガスバルク供給システムによる非常用発電機を設置することとしました。大がかりな工事となり、工程の最終段階の切替え作業時には8時間の停電を行わなければなりませんでした。1月という寒い時期でもあり日中の切り替えも考えましたが食事の時間に重なる場合、停電中の調理の問題、配膳下膳の問題、電子カルテ入力の問題などリスクが多く夜間での切り替えを選択しました。夜間の切り替えにおいては寒さとナースコールを使用できないことがリスクと考えました。

これまでは非常用発電装置が稼働した上で1 ～ 2時間程度実施する停電点検は行っていましたが、今回の全館停電はとても挑戦的な内容で、患者さんをはじめ、夜勤スタッフも不安を抱えていましたが、事前に各関係業者様や院内各部署にて連携し、考えられる問題点等を洗い出し共有する事で、対策が取れる状態に準備をする事が出来ました。

各病棟では、計画停電による不安や不便を最小限に抑えるため、患者さんへの丁寧な説明に特に注力し、勤務に関しては、ナースコールが止まる為、看護部夜勤者だけでなく、当日だけ臨時のシフト体制を組んだリハビリテーション部職員も応援する体制を取り、患者さんの不安をすこしでも少なくできる様に対応しました。

臨時で夜勤をするリハビリテーション職員は、”夜の患者さんの状態を把握できる”という高い志で手上げをしてくれた職員であり、まさに職員の鏡とも言える人員となりました。

7時間におよぶ計画停電という挑戦的な状況下で、当院のスタッフは職種間連携や患者さん対応を臨機応変に行った事で、患者さんの安全を最優先に、一件の事故も起こすことなく停電を乗り越えたことは、誇るべき成果でした。

この経験は、予期せぬ事態にも対応できる強固なチームであることを証明しました。今回の成功は、職員一人一人の使命感と専門性によって支えられたと考えます。